

[国 語]

個の学びを追究するための指導方法の工夫

- ワークシートの活用と意見交流を取り入れた実践から -

清水登紀子*

1 主題設定の理由

「文学作品を読むことは好きだけど、国語の授業でやるのは苦手。」そんな声を、教室の多くの児童から耳にする。と同時に、教師である私自身の思いであると言っても過言でない。高学年になると、児童は、説明文なら、物語は…などと自分の得意、不得意分野について意識し、それが授業への意欲に反映することが少なくない。説明的文章と文学的文章を対比すると、説明的文章よりも、文学的文章を苦手とする児童が多いのが、自学級の現状である。このように、国語に対する苦手意識を生み出してきた原因は、これまでの授業のやり方にあるのではないかと反省している。

これまで行ってきた国語（特に文学的文章教材）の授業を振り返ってみると、その多くが教師主導で、「主題は何か」という全員共通の課題設定の下、作品の冒頭から場面を追って、順に読み進めるという学習スタイルであった。その結果、作品の山場にたどりつくころには、読むことに疲れたり、飽きたりする児童が大半であった。一つの作品にじっくりと読み浸り、作品のおもしろさを感じ取ってほしいという願いとは反対に、「面倒だ」、「授業でやるとおもしろくない」という児童を増やすことになっていたのである。同様のことを筑波大付属小の二瓶氏は「そうやって、何十年の間、私達現場教師は、文学嫌いの子どもを生み続けてきた。国語嫌いの子どもを育ててきた。もう、いいよと思う。こんな国語教室は、もういない。(中略) 子ども達に『生きたことばの力』を獲得させたい。自ら読み、自ら書き、自ら話し合い、聞き合う子ども達を育てたい。」¹⁾と述べている。

そこで、これまでの学習スタイルを改め、共通課題による一斉学習から一人一人が自分自身の課題をもって読むことへの転換を図り、個の学びを追究するための指導を工夫したならば、児童の文学的文章に対する読みへの意欲・関心が高まるのではないかと考えた。同時に、児童主体で学習を進めることによって、児童自身が、文学的文章の読み方を学べるのではないかと考え、本研究主題を設定した。

2 研究の目的

文学的文章の読みの指導において、個の学びを追究するための指導方法（ワークシート、意見交流）とその活用の有効性について明らかにする。

3 研究の内容と方法

(1) 自分の考えを書き綴る活動の重視

単元の後半に設定された意見交流を、より有意義なものとし、さらに個の学びを追究させるために、意見交流前、意見交流中、意見交流後、それぞれの自分の考えを明確に持たせたい。そこで、学習教材を読み進める際や意見交流の際は、書くことで自分の考えを明確にするためにワークシートを活用する。読む能力にばらつきが大きいという児童の実態を考慮すると、自分なりの方法で読み進められる児童に対しては、自分の読みの方法が生かせるシートを準備する。支援が必要な児童には、手がかりとなる言葉や方法がヒントとして入っている補助シートを準備し、児童の理解状況に合わせて提示したい。ワークシートを活用することによって、一人一人の実態に即した支援の工夫が容易であると考えられる。ワークシートの作成にあたっては、「どの子も書けるシート」「書いたことを振り返ることができるシート」「書いたことをもとに、さらに書き足せるシート」「発表の手がかりとなるシート」等々、1枚のワークシートにより多くの重要な役割をもたせるよう工夫する。

*上越市立針小学校

(2) 意見交流を中心とした個の読みを交流する活動の重視

個の学びの追究では、個々の読みにとどまらず、それをもとにさらに読みを広げたり、深めさせたりしたいと考える。そのために個の読みをもとにした意見交流を行う。個の読みを交流し、自分の読みと比べたり、異なる読みを認め、自分の読みを伝えたりする。同時に、自分の読みを友達に伝えたり、同じ読みを友達の意見として客観的にとらえたりすることで、自分の読みをより確かなものにする可以考虑。

実際の意見交流の場面では、その都度、交流の視点を明らかにし、何のための意見交流なのかという目的意識を明確にもたせたい。また、グループ別の意見交流ではTTで行うことで、きめ細かな児童の見取りと個に応じた指導にあたる。

4 研究の仮説

仮説1

ワークシートを意図的、継続的に活用することで、個に応じた学びの支援が容易となり、個の学びの追究がよりスムーズに進むであろう。

仮説2

個の読みをもとに、目的を明らかにした意見交流を行うことで、自分の読みを確かに行うことや、さらに読みを広げたり深めたりし、個の学びを追究することができるであろう。

5 研究実践

(1) 単元名 「海の命」って何だろうー (「海の命」光村図書 6年下)

(2) 対象児童 第6学年(男子14名 女子17名 計31名)

(3) 単元の目標

- ◎ 「海の命」とは何かを考えながら、登場人物の生き方や考え方を読み取る。
- 自分の考えを広げたり、深めたりするために意見交流をしたり、他の作品と比べ読みしたりして、海の命って何だろうということについて考えをもち、読書生活を広げる。

(4) 指導計画

指導計画の作成にあたっては、これまでの学習スタイルを改め、一人一人が自分自身の課題をもって読むことへの転換を図り、個の学びを追究するために、以下の3点を作成の視点とした。

- ① 個による学習、グループでの学習、全体での学習の3つの形態を意図的、計画的に取り入れることで学習形態を工夫すること
- ② 意見交流を計画的に取り入れること
- ③ ワークシートに自分の考えを書くことを継続して行うこと

(5) 指導の実際と考察

① 自分の考えを書き綴る活動の重視について

本単元では、合計7枚のワークシートとその他にメモシート等を作成し、活用した。

ワークシート1～5は、主に個の学習課題の追求に関わるシートである。ワークシート3では、学習教材を個別に読み進め、個の学習課題を解決するために、いくつかの読みの方法を紹介した。これまで、全体で一斉に読み進めることが多く、一つの物語を自分一人で読み進める経験がない児童にとっては、具体的な方法の紹介が必要であった。そこで、教室での読み聞かせや影絵鑑賞教室での上演により、児童がよく知っている物語を題材に、読みの方法を具体的に提示し、指導した。これをもとにワークシート4では、全ての児童が自分で方法を選択し、自分なりの学習教材の読みをシートにまとめることができた。

指導計画（全10時間）

次	時	学習形態	意見交流	ワークシート	主な学習活動	評価
1	1	全体 ↓ 個		ワークシート 1	・「海の命」という題名からイメージすることを話し合う。 ・全文を通読し、初発の感想を書く。	・課題作りにつながる初発の感想を書いている。
	2	全体 ↓ 個	ワークシート上での感想の交流	ワークシート 2	・全文を通読して、自分の学習課題を設定する。 ・自分の学習課題を書く。	・叙述にもとづいた学習課題を設定している。
2	3	全体 ↓ 個		ワークシート 3	・学習課題を解決するための読みの方法を知り、学習課題解決への見通しをもつ。	・学習課題を解決するための読みの方法を理解している。
	4 ・ 5	個		ワークシート 4	・それぞれに選んだ方法で読み、自分の学習課題に対する考えをもつ。	・読みの方法を、活用している。 ・学習課題に対する自分の考えの根拠を見つけることができる。 ・優れた表現や叙述に着目し、語感や言葉の使い方に関心をもっている。
			ワークシート 5			
3	6	グループ ↓ 個 ↓ グループ ↓ 個	意見交流1 ・個別課題について	ワークシート 5	・学習課題ごとにグループをつくり、同じ（または似ている）課題に対する意見交流をする。 ・自分の学習課題について意見交流を通して考えが広がったり、深まったりしたことを振り返り、シートに書く。 ・学習課題別グループごとに、自分たちの課題と「『海の命』って何だろう」という課題のつながりについて意見交流をする。 ・「『海の命』って何だろう」という課題に対する自分の考えを書く。	・海の命とは何かについての自分の考えをまとめるため、友達との意見交流に積極的に参加することができる。 ・意見交流の場で、自分の考えについて説明したり、友達の考えを聞いたりしながら考えを深めることができる。
			意見交流2 ・個別課題と「『海の命』って何だろう」のつながりについて	ワークシート 5・メモ ワークシート 6		
3	7	グループ ↓ 全体 ↓ 個 ↓ 全体 ↓ 個	意見交流3 ・「『海の命』って何だろう」について	ワークシート 6 (資料1)	・学習課題別グループごとに、「『海の命』って何だろう」という本時の課題について意見交流をする。 ・本時の課題について、グループ別の意見交流をもとにした自分の考えを述べ合い、全体で意見交流をする。 ・意見交流をもとに、「海の命とは何か」についての自分の考えをまとめ、書く。 ・「『海の命』って何だろう」についての自分の考えを発表する。 ・これまでの学習の振り返りをシートに書く。	・自分の考えを発表したり、説明したりしている。 ・自分の考えを明確に伝えるために、叙述に即した根拠や理由を明らかにして話したり、聞いたりしている。 ・「『海の命』とは何か」について、自分なりの考えを広げたり深めたりしながら読んでいる。
			意見交流4 ・「『海の命』って何だろう」について	ワークシート6・メモ ワークシート6・ヒントメモ ワークシート6・スペシャルメモ ワークシート 7		
4	8 9 10	個			・「命」をテーマとした物語を創作する。	・命についての自分の考えを、組み立てを工夫して文章にまとめている。

※ 学習形態について 全体…学級全体での学習 個…個別学習 グループ…課題別グループでの学習

ワークシート5は「発表の手がかりとなるシート」である。学習課題別グループでの意見交流（意見交流1）の手がかりとして活用できるよう、自分の学習課題とそれに対する自分の考え、もとになった教科書の叙述やなぜそう考えたかを事前に書き込んだ。また、意見交流後の自分の考えも同じシートに書いて、はじめの自分の考えと対比できるようにした。意見交流中は、友達の考えを聞きながら、自分の考えを書くことができるよう、メモ用のシート（メモシート）を準備した。「書いたことをもとに、さらに書き足せるシート」である。しかし、準備したメモシートに、友達のシート（ワークシート5）を借りて、そのまま書き写す場面が見られ、多くの児童にとっては、メモシートは有効に機能しなかった。

ワークシート6は、「書いたことを振り返ることができるシート」として、意見交流の前で「『海の命』って何だろう」の共通課題に対して、はじめの自分の考え・意見交流3後の考え・意見交流4後の考えと自分の考えの変容が分かるよう、内容を工夫して作成した。そして、ワークシートに書いた自分の考えをもとに、2回の意見交流（意見交流3・4）を行った。ここでもメモシートを準備したが、前時の反省にもとづき、前回、友達の意見を聞いてメモを取っていた児童のシートを紹介したり、より具体的にメモのポイントを示したシート（ヒントメモシート）を準備したりした。「どの子も書けるシート」である。メモシートの他に2種類用意したヒントメモシート（資料1ヒントメモ・スペシャルメモ）は、児童の実態や状況に応じて提示するようにした。その結果、意見交流3・4では、友達の考えの要点を書きながら意見交流ができる児童が増えた。特に、全くメモの取れなかった児童は、ヒントメモシートを活用してメモをとることで、主体的に意見交流に参加することができるようになった。このように、ワークシートを工夫することで、すべての児童に個の学びを追求するための手立てが保障され、同時に、友達の考えと自分の考えを関連付けながら学ぶという学び方を習得することができたと考える。

〈資料1 ワークシート6
メモシート（後略）〉

<p>☆ メモをしながら意見交流をしましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分と考え方は、同じ？ ちがう？ ・どこが同じで、どこがちがうのでしょうか？なぜちがってくるのでしょうか？ ・分からないときは質問しましょう。 ・グループのみんなで、今日のテーマについて意見を出し合いましょう。 	<p>—海の命って何だろう— 六年 番（ ）</p> <p>立松和平「海の命」から 6・メモ（ ）</p>
---	---

〈資料1 ワークシート6
ヒントメモシート（後略）〉

<p>☆ メモをしながら意見交流をしましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・だが、どんな考えをもっているのか、聞きながらメモしましょう。 ・よく分からないときは、質問しましょう。 ・グループでは、お互いにいろいろな意見を出し合って、「海の命」は何かを考えてみましょう。 	<p>—海の命って何だろう— 六年 番（ ）</p> <p>立松和平「海の命」から 6・ヒントメモ（ ）</p>
<p>だれが</p>	<p>「海の命」をどう考えているか</p>

〈資料1 ワークシート6
スペシャルメモシート（中略）〉

<p>☆ 意見交流をして整理しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の考えに近いのは、だれですか？ 自分よりいい考えたなと思ったのはだれの意見ですか？ 自分とはちがう考えたなと思ったのはだれの意見ですか？ 意見交流をして、自分の考えは変わりましたか？変わりませんか？ 自分の考えの参考になったのは、だれの考えですか？ 	<p>—海の命って何だろう— 六年 番（ ）</p> <p>立松和平「海の命」から 6・SPメモ（ ）</p>
<p>だれが</p>	<p>「海の命」をどう考えているか</p>

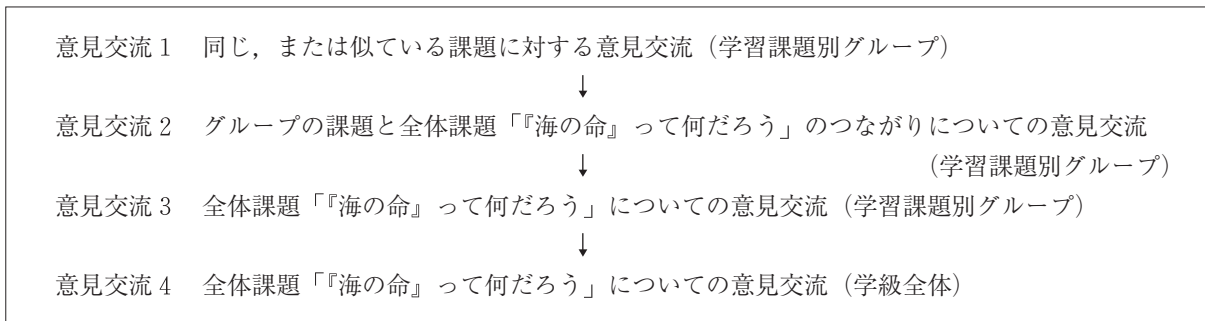
② 意見交流を中心とした個の読みを交流する活動の重視について

本単元では、読みの学習の過程で意見交流を行うことを念頭に学習をスタートし、第1時では、「みんなで話し

合ってみたいことは何か」についてワークシート1に書く活動を取り入れた。そして、友達はどうな感想をもち、何を話し合いたいと思ったのかについて、ワークシート上で紙面交流した後、個の学習課題設定を行った。個の学習課題は大きく分けると6つになったが、ワークシートで紹介された友達の感想を読んで、「友達はこんな感想をもったのか…、自分と似ているな」とか、「自分は気が付かなかつたけれど、そういうことを話し合ったらおもしろそうだな」と、読みの多様性に気付く児童もいた。

また、最終的には個別の課題をもとに、単元を貫くテーマである「『海の命』って何だろう」を考えていくことを単元の導入時から意識づけた。そのため、個別の学習課題から、「『海の命』って何だろう」という共通課題への移行で活動が途切れることはなかった。

意見交流は、個別の学習課題が同類のグループ（学習課題別グループ）と学級全体の2つの形態で、計4回を行った。意見交流の内容は以下のように推移した。



4回の意見交流で児童は、自分の考えにこだわりをもったり、修正したり、あるいは広げたりしていった。Nさんは、次のように考えを深めた。

自分の学習課題	「海に帰りましたか。」という言葉の意味
課題に対する自分の考え (ワークシート5)	おとうも与吉じいさも、海のある所で生まれ、海と育ち、海に生かされ（海と生きて）、そして最期はまた一緒に生きてきた海に帰ったという意味だと思う。
意見交流1の後の考え (ワークシート5)	漁師として生きるということは、海で生きるのと同じという考え、海に帰る＝天国へ行くのと同じ意味という考えに共感しました。
意見交流2の後の考え (共通課題についてはじめの自分の考え・シート6)	「海の命」は、瀬の主であるクエだと思う。クエは、この広い海のとある一つの瀬の主である。クエが、他の魚を守っているように見えたのだと思う。海の命という意味は、その瀬の主から、その沖までの主、海の主とつながっているように感じたからだと思う。
意見交流3の後の考え (共通課題についてグループ交流後・シート6)	私は、多くの小さな魚を守っているクエが「海の命」と思っていたけれど、Tさんの「魚一匹一匹が『海の命』」という考えを聞いて、私の大まかな「瀬の主＝海の命」という考えより、細かで雄大だと思いました。
意見交流4の後の考え (共通課題について全体交流後・シート6)	私が「海の命」だと思ったのは、やはり瀬の主クエです。理由は、今まで（交流3まで）の他にもう一つ生まれました。それは、クエにおとうは破れたけれど、その海に帰ったおとうの魂は、クエと生きていたのだと思いました。太一も初めて見た時は、クエを「おとうを殺した魚」と思ったのだと思うけれど、時間がたって考えが変わったのは、クエにおとうの命を感じたからだと思います。

Nさんは、自分の学習課題に対して、意見交流1で得た友達の考えに共感することで、自分の考えを強化している。共通課題に対しては、意見交流3で自分と違う考えにも着目し、考えを広げているが、意見交流4を通して、再度、自分のはじめの考えに立ち戻っている。ここでは、交流を通して、自分なりに新たな考えを生み出し、はじめの考えをより確かなものにしていったと考えられる。

意見交流3・4での考えを書き綴ったワークシート6では、3つの場面（共通課題について、はじめの自分の考え・グループ交流後・全体交流後）で、シートに記入された考えが全く同じという児童は一人もいなかった。このことから、どの児童も自分の考えを持ち、友達の考えと関わらせながら課題を追究していたと言える。

また、意見交流4の後にを行った学習の振り返り（ワークシート7）では、意見交流について次のような感想があった。

・私は、この学習で感じ、知ったことは、一文一文考えることの楽しさ、一つじゃなく人数の分だけ答えのある面

白さを感じました。(Nさん)

- ・自分の意見を出すだけでなく、グループ交流や全体交流のおかげで気付けたこともありました。(Rさん)
- ・この勉強で苦手だった読み取りも少しはよくなり、いろんな角度からそのことを少しは読み取れるようになったと思います。(Kさん)

これらの感想から、意見交流で個の読みを交流する活動を重視したことにより、個の学びが追究され、その結果、児童は、成就感を得ることができたのではないかと考える。

6 研究のまとめ

(1) ワークシートを意図的、継続的に活用することについて

ワークシートの利点は、個に応じた指導が容易であることである。普段の学習では、ノートがなかなか書けない児童でも、ワークシートを用いれば、自分の考えや友達の考えを書くことができる。また、つまづき予想される児童に対しては、事前に補助シートを用意し、状況に応じて即座に対応することができる。個に応じた指導ができるということは、全ての児童に個の学びを追究する場が与えられるということである。ワークシートを意図的、継続的に活用することは、個の学びの追究をスムーズに進める上で有効である。

(2) 個の読みをもとに、目的を明らかにした意見交流を行うことについて

個別の学習課題や全体の共通課題に対する自分の考えをワークシートに書き、それをもとに意見交流を行った。自分と同じ結論でも、理由が異なっていたり、同じ言葉でも受け取り方の違いがあったりすることを意見交流を通して感じた児童が多かった。そして、友達の意見を自分の理由付けに加えることで、自分の読みをより確かなものにした。違った角度からの見方を知ることで、読みを広げたりしていた。また、事前に自分の読みを明らかにし、意見交流を行うことで、主体的に意見交流に参加することができた。それは、個の学びを追究する姿であるといえる。

また、何のための意見交流なのか、何を意見として交流するのが明らかであったため、児童は目的をもって意見交流に参加することができた。自分の読みを確かにしたり、読みを広げたりするために、意見交流は有効な方法である。

本単元では、4回の意見交流のうち、連続した3回が課題別グループによるものだった。同じグループでの意見交流が続いたため、後半はマンネリ傾向が見られた。交流グループの編成や意見交流時の形態など、何らかの変化をもたせることもより有効な意見交流を導く上で必要であった。

7 今後の課題

本実践の大きなねらいの一つは、自分自身の授業改善であった。個の学びを追究させるために、児童が主体的に学ぶ姿が見られた一方で、教師自身の役割についても再考させられた。31名の個の学びをどこでどうつなぎ合わせていくかは、教師の力量である。今後も個の学びの追究を大切にしながら、授業の中での教師としての具体的な役割やその手立てについても考えていきたい。

注

- 1) 二瓶弘行 『子どもが創り、子どもが学ぶ』光文書院、1999年、p6

参考文献

- 首藤久義 「文学作品を楽しんで読むー主題よさようならー」『月刊 国語教育研究No392』日本国語教育学会、2004年
- 小林康広 「方法を学び、自らに生かす国語学習室ー七つの試みよりー」『月刊 国語教育研究No397』日本国語教育学会、2005年
- 小野塚眞郎 「読みを深めるための説明文単元展開の工夫」『教育実践研究第12集』上越教育大学学校教育総合研究センター、2002年
- 恩田 忍 「読みを深める効果的なメモの活用ー個の活動を大切にしたい指導の実践からー」『教育実践研究第8集』上越教育大学学校教育総合研究センター、1998年